

新発田市 令和4年度 第1回定例記者会見

1 日 時 令和4年4月5日（火）午前11時～

2 場 所 ヨリネスしばた 501・502 会議室

3 内 容

【市長発表項目】

- 「道の駅加治川」のリニューアルオープン
- 「使っ得！にいがた県民割キャンペーン」日帰りゴルフプラン（第2弾）の販売
- 株式会社愛工機器製作所の当市進出について
- 市民と共に取組む『市民のきずなを深め「いのち」を守る事業（自殺対策事業）』第1弾について
- ウクライナ避難民を支援する企業・団体の募集
- 5歳から11歳への小児接種会場での接種誤りについて（配布資料なし）

【その他】

- 「ふとっパラ」「ふとっパラプレミアム」限定販売！
- 落谷虹児記念館開館35周年記念 第4弾 落谷虹児フレーム切手 贈呈式
- 落谷虹児記念館開館35周年記念特別展 進化する美人画 池永康晟^{やすなり}×落谷虹児
- 小学校教職員の防災キャンプ研修会
- 住宅及び中古住宅のリフォーム支援継続実施
- 蔵春閣移築事業説明会の開催

あいさつ

- 春らしくなってまいりましたが、本格的な春はもう少し後のようです。そのことは桜のつぼみが教えてくれていますが、それももう少しで満開になるだろうと思います。
- さて、21世紀になって相当時間も経ちましたが、今なお紛争が止まない世界なんだと改めて思います。ロシアがウクライナに侵攻し、世界が混乱し、深い悲しみに包まれています。争い事というのは、どちらにも言い分があるものです。それが7対3であったり、五分五分であったりしますが、100対0ということはあり得ない。なぜなら、100対0では争いになりません。そういう視点で見ても、私にはロシアの言い分が見えない。どうしてこんなことになったのだろうと不思議に思っています。
- 大切なものを守るために懸命に戦っているウクライナの皆さん方に、こんな小さな田舎のまちですが、何かできることはないのかと考え、よろしかったら、難民の皆さん方が日本にお出での際に、少しでもお手伝いしたいという思いから、難民の受入れを表明したところです。
- 今日は、新年度最初の記者会見ですので、この1年に向けた私の市政運営について少し触れてみたいと思います。私は毎年、年頭の年賀交歓のときに、一つの言葉を市民の皆さんにお話をし、市政を運営させていただいております。去年は「活」でした。新型コロナウイルスとの戦いの真っ最中ということです。コロナに負けずに頑張ろう、負けてたまるか、生きよう、死中に活を求め、市民を鼓舞したい。そんな思いから、「活」というキーワードを念頭置き、市政を運営させていただきました。
- 今年は、その「活」を受ける形で、「刻」といたしました。時を刻む、歴史を刻むの「刻む」であります。新型コロナウイルスとの戦いというよりも、むしろウィズコロナ、コロナを脇に抱えながら、ポストコロナを見据えよう。そしてポストコロナの新しい1ページを刻んでいこうという意味で、「刻む」といたしました。
- ポストコロナというのは、元のコロナ前の社会に戻したいということではありません。一段高い社会を目指すということです。ヘーゲルは、「社会は螺旋的に発展をする。」と言っています。螺旋階段を上から見ていると、ぐるぐると人が回っているように見える。確かに時代は繰り返すように回

っているけれども、螺旋階段を横から見れば、間違いなく社会は一段一段高く上がっているということであります。ポストコロナ、それはコロナ前の社会ではなくて、一段高い社会を目指すということであります。

○例えば、循環型社会というのがありますが、これは日本の農耕民族の一つの文化、社会基盤になっています。このキーワードは「もったいない」ということになりませんが、私達はそこに「教育」という概念を注ぎ込みました。そして食と農による循環型社会、食育という形で今まで押し進めてまいりました。この食育に、SDGs という概念を注ぎ込むことによって、オーガニックという一つのものを作っていく。オーガニック米、あるいはオーガニック商品を輸出につなげていこうと考えております。

○もっと砕いて言えば、質屋というのがあります。質屋というビジネスモデルに、リユース、リニューアルというエンジンを積むことによってハードオフができる。そのハードオフにインターネットというエンジンを積むとメルカリになる。同じようなことをやっているようだが、間違いなく社会を上へ上がっていくということであります。

○そういうポストコロナを目指したい、そして刻む年にしたいということで、今回は「刻む」をキーワードに据えているところです。他市がコロナ前に戻すために頑張っているということからすれば、当市はフライング気味なのかもしれませんが、ゴールに至るときに大きな差が出るだろうということを私は確信しています。ポストコロナを見据え、このキーワードでこの1年を進めたいと思います。

それでは、会見項目を説明いたします。

最初に、「道の駅加治川」のリニューアルオープンについて

○観光ルートの北の玄関口である「道の駅加治川」が、令和4年4月23日に、いよいよリニューアルオープンいたします。観光案内機能を充実させるために「地域おこし協力隊員」を配置し、新発田市初の物産館としての機能も併せ持つ、複合的な「道の駅」としての再スタートです。

○「道の駅加治川」は、旧加治川村時代の平成5年に、豊栄に次ぐ県内2番

目の道の駅として登録されました。交通量の多い国道7号での立地条件から、多くの方にお立ち寄りをいただき、愛された道の駅ではありましたが、近隣に大型の道の駅が多数設置されたことから、近年は集客力が落ちてきておりました。

- このことから、新たなコンセプトとして、長時間滞在いただき、当市の魅力を存分に堪能いただくことを目的に、「新発田の食」、「新発田の農産物」、「新発田のお土産」を一堂に揃えた「新発田づくし」をテーマとして、昨年4月から1年をかけ、国の補助金を活用して改築いたしました。
- 近隣の超大型道の駅に比べ、規模は大きくはありませんが、十分に中身の詰まった、まさに「山椒は小粒でもピリリと辛い」、一度お越しをいただければ、病みつきになるような道の駅にしたいと考えております。
- 新コンセプトの実現に向けた施設運営を行うために、運営を委ねる事業者の選定は、公募によるプロポーザル方式で実施し、最も魅力的なご提案をいただいた三福運輸^{みふく}さんに運営をお願いいたしました。代表取締役の五月女^{そおとめ}さんは、もともと、大手航空会社のキャビンアテンダント出身であり、接遇のプロです。女性ならではの、きめ細やかな視点と、キャビンアテンダント時代に培った経験、そして運送会社の経営から、道の駅に立ち寄るドライバーの嗜好も十分に承知をされておられることから、施設運営にはこの上ない人材であり、これまで以上に魅力的な道の駅として、当市を代表する観光施設、集客施設にさせていただけるものと大変、期待をしております。
- 詳細なコンセプトや運営方針については、後ほど五月女代表取締役からご説明をいただきたいと思います。施設の概要について若干説明いたします。新装オープンする道の駅加治川は、本体に「新発田の旨い食」を召し上がっていただけるレストラン、高品質な地場産農産物を販売する直売所、新発田の土産品をはじめ、県内の銘品を取りそろえた物産販売所、そして、新発田の魅力をお越しいただいた皆さんに伝える観光案内所を併設しております。
- また、これまで農産物直売所「やまざくら」として使用してきた建物を、新たに、焼き立てのパンを召し上がっていただけるパン工房「SAKURA BAKERY (サクラベーカリー)」として整備いたしました。焼き立てのパ

ンを提供する道の駅は下越エリアでは初であり、新たな魅力として、顧客の獲得にもつながるものと考えております。

- 4月23日（土曜日）は道の駅加治川が再スタートする記念日であることから、翌24日（日曜日）にかけてオープニングイベントを開催いたします。当地は、日本一小さな山脈「楡形山脈」の麓に位置し、天然記念物の山桜がちょうど見ごろを迎えます。当日は旬を迎えた新発田産いちご「越後姫」のフェアを開催する予定です。山桜の薄紅色そして越後姫の鮮やかなピンク色で店内が賑やかに彩られます。多数の皆様にご来場いただきますようお願いいたします。
- 本日は、運営者であり、駅長でもある三福運輸株式会社 五月女奈緒美代表取締役をはじめ、飲食部門を担当される有限会社サークルセブン中野則司代表取締役と、道の駅加治川のスタッフの皆さんにもお越しいただいておりますので、詳細なコンセプトや開業に向けた意気込みをお話いただきたくと存じます。それではお願いいたします。

【五月女代表取締役】

- 新発田市で生まれ育ちました。新潟の高校、東京の短期大学を卒業後、大手航空会社に入社し、26年間、客室乗務員として勤務し、2013年に父の会社を継ぐために新発田市に戻ってきました。
- 会社に入社した時から、目の前に道の駅がありましたが、施設の利用者が少なくなっており、寂しさを感じていました。「私ならこうしたい。」という思いを抱いていたときに、新発田市から道の駅のリニューアルに伴う指定管理者の選定という話がありました。「私の出番がきた。」と思いましたが、レストランなど、施設の全てを一人で運営するのは難しいとも思っていました。その時、中野社長からのお誘いがありました。中野社長も加治川村の出身であり、地元で恩返しをしたいと考えており、二人の思いが一致し、手を組んで指定管理を受けようと手を挙げました。また、道の駅だけではなく、本業もあるので人手がまだ足りないと考えていたところ、副駅長となる水澤さんと出会い、一緒に手を組んでいくことにしました。
- 新しい道の駅のコンセプトは「加治川ピクニック」です。加治川地区では100年も前から、加治川の桜並木や大峰山の山桜の下で「花見休み」というダンスを踊り、弁当を食べる文化がありました。今でいうピクニックですので、これをコンセプトとしました。以前の旧道の駅でも、「加治川さくらピクニック」というプロジェクトを組み、マカロンなどのオリジナル商品を販売していましたが、これを踏襲

するものでもあります。このコンセプトで取り扱う商品を選びました。

○この道の駅の理念は、「訪れる人の道の駅」「地域の人のための道の駅」「働く人のための道の駅」です。客室乗務員での経験を活かし、スタッフ教育にも力を入れ、立派な施設や商品にも負けない、最上級のおもてなしをしていきたいと思えます。

【中野代表取締役】

○新発田の北の玄関口で、地元の魅力を発信する拠点としたいと思っています。施設の利用者の皆様、関係者の皆様、市民の皆様に愛され、支持される道の駅となるよう精一杯努力してまいります。

○オープンを待ちきれない、お二人の意気込みが伝わったと思います。後ほど皆さんから質問などがありましたらお願いいたします。ありがとうございました。

次に、「使っ得！にいがた県民割キャンペーン」を利用した日帰りゴルフプラン(第2弾)の販売について

○新発田DMOでは、新潟県が実施する「使っ得！にいがた県民割キャンペーン」を活用して、新発田市・胎内市・聖籠町の8ゴルフ場が参加する「日帰りゴルフ旅行プラン」を昨年に引き続き実施しております。

○昨年度は7月から10月までの開催で5,000人以上の皆様にご利用いただき、ゴルフ場だけでなく、タクシー事業者やレストランへの食材納入などにも大きな経済波及効果を生み出すことができました。

○新発田市をはじめ、胎内市、聖籠町には新潟県を代表するゴルフ場が多数あります。近年は新潟県出身の女子プロゴルファーの活躍もあり、新たに若い女性などにも人気が出てきていると伺っております。当市出身の石井理緒選手も今年のトーナメント開幕早々に2位に入るなど、優勝にも手が届きそうな勢いがあります。

○野外でのスポーツであり、コロナでたまったストレスの解消には、まさに

うってつけです。春の柔らかな日差しを浴びながら、友人やご家族で気軽にゴルフプレーを楽しんで、リフレッシュしていただきたいと思います。

○旅行費用はタクシー代金、ゴルフプレー代金の合計から、5,000円を割り引いた金額であり、概ね5,000円から12,000円となっています。さらに、レストランや売店、登録店舗などで使える2,000円のクーポン券が付きますので、とてもお得なプランになっています。

○さらにお得な日帰りゴルフプランの使い方として、是非1泊2プレーでのご利用をお薦めしています。日帰りゴルフプランを利用いただき、初日のプレー後は、月岡温泉をはじめ、管内の宿泊施設にお泊りいただき、翌日はまた、違うゴルフ場でプレーをいただくと、料金はそれぞれ5,000円割引ですので合計15,000円割引に加え、3日分のクーポン券6,000円がついてきますのでトータル21,000円もお得なプランになります。

○使っ得プランのご利用は、現在、県内をはじめ、山形県や福島県など6県に拡大されていますので、この機会に遠方からの誘客も進めてまいりたいと考えております。

○詳細につきましては、プランの造成・販売を行う新発田市観光協会の職員が出席しておりますので、ご説明をさせていただきます。

【新発田市観光協会職員】

○3月24日から販売を開始し、今日現在で約250件、900人の申し込みをいただいています。パンフレットを県内一円に配布しているところです。また、このプランとは別に、新発田市独自の「今・得キャンペーン2022春の陣」も開催しております。こちらは全国の方を対象にしておりますので、ぜひ当市にお越しいただきたいと思います。

○これからゴルフのトップシーズンとなりますので、皆様、お誘いあわせいただき、楽しいひと時を過ごしていただきたいと思います。ありがとうございました。

次に、株式会社愛工機器製作所の当市進出について

- 1年前のこの会見で、京セラ株式会社新潟新発田工場の、令和4年3月の操業停止に伴う市の対応について、「興味を示す会社とのマッチングを進めていく。」とお答えしておりましたが、この度、愛知県春日井市に本社を置く、株式会社愛工機器製作所さんの進出が決定いたしました。
- 京セラさんの工場閉鎖をお聞きして以来、工場にお勤めの皆さんの雇用について大変心配しておりましたが、この度の愛工機器さんが当市へお出でいただくことになり、とても喜んでおります。
- 愛工機器さんは、京セラさんの従業員のうち、新発田に残って愛工機器さんに就職したいという方々を、積極的に採用していただけるとのことで、既に採用面接会を開催され、一定数の方々の採用が内定したとお聞きしております。また、今後、さらに採用を増やしていくとのことでありますので、市としましても雇用確保に協力してまいります。
- なお、本格的な操業開始は令和6年からとのことであり、それまでの間は、同社の他の工場などでお勤めいただくなど、就職する方々のご希望に合わせて、柔軟な対応をとられるとお聞きしております。

次に、市民と共に取組む『市民のきずなを深め「いのち」を守る事業(自殺対策事業)』第1弾について

- 既に報道されていますが、令和3年、全国の都道府県において人口10万人に対する自殺者の割合で、新潟県は全国ワースト3位という大変残念な結果となりました。また、当市で令和3年に自死された方は17人で、前年の26人から大きく減少してはいるものの、尊い17人の方の命が自ら絶たれてしまったという事実は、大変重く受けるべきことであり目を背けることは出来ません。
- 以前も申し上げましたが、自ら命を絶つ市民を1人でも減らすために、個人の問題ではなく、社会全体の問題として捉えることが何よりも重要です。
- 花角県知事にも、何度も直接お伝えしていますが、タイミングを逃すことなく、県が舵とり役になり、県全域で目に見える県民運動を起こすべきで

す。ワースト 3 位という不名誉な結果を覆^{くつがえ}すためには、出来ることは何でもやるという強い気持ちを持って、県にはイニシアチブをとって行動してほしいと思います。

- 一方で、県に物申すばかりでなく、当市でも、啓発活動や相談事業などに加えて、昨年度は市の公用車だけでなく、民間企業の社用車にもスローガンを記載したマグネットシートを貼りつけていただく取組や、市職員だけでなく、全ての市議会議員の皆様にもゲートキーパー研修を受けていただくなど、自殺対策に力を入れてまいりました。
- 令和 4 年度はさらなる取組として、心を癒す花を大いに活用しようと考えています。百日草の花言葉は「絆」。百日草を育てることを通じて、まちの至る所で「絆」の花を咲かせ、悩みごとを抱え孤立している人に「悩んでいたら誰かに相談していいんだよ」というメッセージを直接届けたいと思っています。
- 多くの市民の皆様にご力を貸していただき、同じ想いで花を育てていただけるよう、無料で百日草の種を配付します。官民を挙げて、たくさんの「絆」の花を咲かせ、身近な暮らしや何気ない日常生活の中で、市民の皆様のご大切な命をお守りしていく一助になればと考えています。

次に、ウクライナ避難民を支援する企業・団体の募集について

- 先の 2 月定例会におきまして、当市はウクライナからの避難民の受入れを表明いたしました。そして、国・県からの要請があれば、すぐに対応できるよう、副市長をリーダーとする庁内プロジェクトチームに、受入れ体制の整備を指示しております。
- 現時点では、新発田市に避難してこられたウクライナ国民の方はおりません。しかし、連日、国外避難するウクライナ国民が増加していることや、国が政府専用機で日本への避難希望者を乗せて帰国する方針を示していることから、日本へ避難するウクライナ国民が増えることが想定されます。
- 受入れにあたり、まずは、安心して生活していただくために、衣食住の環

境整備が必要です。受入れ直後の一時的な避難施設は、市の公共施設を想定しておりますが、そう長く滞在できるものではありません。また、食文化やライフスタイルのギャップから生じるストレスも予想されます。

○そこで、中・長期を見据えての滞在先として、例えば社員寮や空き家といった住宅の提供や、自立した生活のための就労先の斡旋^{あつせん}や雇用に御協力いただける企業や団体を募ることといたしました。

○また、避難民が受けた心の傷の大きさは計り知れません。心のケア、生活支援には言葉や文字でのコミュニケーションが不可欠となりますので、通訳や翻訳に御協力いただけるボランティアも募集いたします。

○私たちにできることはほんの僅かなことかもしれませんが、その少しのできることを「オールしばた」で精一杯取り組むことで、ウクライナの皆さんを応援し、励ましていきたいと思っております。

○なお、状況の詳細について、担当から説明をいたします。

【担当職員】

○国も法整備や受入態勢構築を進めておりますが、自治体への受入要請は未確定です。当市では、国の要請を待たず、既に生活必需品の確保にかかる調整や、受入施設の調整、子どもたちを受け入れる学校や園の調整を終えています。

○避難民の受入表明後、市民の方からの空き家提供や義援金の申し出、新潟県立大学や敬和学園大学からは通訳の協力など、ありがたいご連絡をいただいております。

最後になりますが、5歳から11歳への小児接種会場での接種誤りについてご報告いたします。

○当市では、コモプラザ内に5歳から11歳までのお子さん専用の接種会場を設営し、1・2回目の接種に取り組んでおります。

○先週、4月2日土曜日午後3時半頃に、同会場に12歳のお子さんがお越しになりました。当市のルールでは、12歳への1・2回目の接種は、小児科医院で大人用のファイザー社製ワクチンを接種することにしておりま

す。しかし、先週土曜日の案件では、小児特設会場で担当職員がそのまま受付をしてしまい、結果として、5歳から11歳が対象となる小児用ファイザー社製ワクチンを誤って接種してしまったものであります。

○新発田市民の皆様には、安心・安全に接種いただけるよう日々努めている中で、このような接種誤り事案が発生させたことは大変遺憾であり、心よりお詫びを申し上げます。大変申し訳ありませんでした。

○接種当日の夕方に、保護者の方には直接謝罪をさせていただき、お子さんについても普段通り元気にお過ごしということで、少し安堵していますが、接種方法については、直ちに見直しをさせ、予約受付簿に掲載されていない方への対応は、必ず、統括責任者が行うことや、予診票記載年齢を蛍光マーカーするなど、4月3日から徹底させています。

○なお、県医療調整本部には発生直後に報告し、お子さんへの1週間程度の健康観察の継続や今後の対応のご指示をいただいております。引き続き、県からのご指導を受けしっかり対応してまいります。

○詳細内容については、本日、健康アクティブ戦略監を同席させましたので、後程、お尋ねいただきたいと思います。

○最後に、あらためて新発田市民の皆様には、御心配をおかけすることになりましたことを重ねてお詫びいたしますとともに、決して、繰り返すことのないよう、しっかりと指導いたします。

本日お知らせする情報は以上になります。

報道各社の皆様におかれましては、一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市をご支援いただきますよう、よろしく願いいたします。